◆当商品をご使用になる前に必ず本取扱説明書を
よくお読みください。

KAWAI

CS1

DIGITAL PIANO

取扱説明書

●同梱品

□本体
□ACアダプター（PS-125D）
□フットペダル（F-1r）
□譜面立て
□ファンクションシール
□取扱説明書（本書）
□保証書
□ご愛用者カード
□アフターサービスと音楽教室のご案内
□「コンサートマジック曲集」のご案内
□「コンサートマジック曲集」払込通知票
（全て各1部）

《ごあいさつ》

**このたびは、KAWAI 電子ピアノをお買い求め頂きまして、誠にありがとうございます。
本機では、ピアノ音色をはじめ全16音色で演奏を楽しむことができます。また、自分の演奏を録音する機能，音質の切り替えを行うEQ（イコライザー）機能，デュアル演奏やコンサートマジックなど、多彩な機能を装備しています。さらに、電子楽器統一規格であるMIDI機能も装備していますので、他のMIDIを装備した電子楽器と接続してアンサンブル等、バラエティーに富んだ演奏にも対応できるようになっています。**

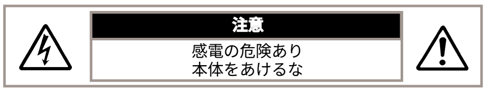
本機の性能をフルに発揮させていただくとともに、いつまでも末永くご愛用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読み下さるようお願い致します。

目次

◆安全上の注意 2
◇ 操作パネル 4
1.各部の名称と働き 4
◇ AC アダプター / フットペダル / ヘッドホンの接続 4
◇ 付属ファンクションシールの使用 5
2.演奏してみましょう 6
1）基本操作 6
◇ 音色の選び方 7
2）デュアル演奏 8
3）コーラス / リバーブ / イコライザー 9
◇ 音にコーラス効果を加える。 9
◇ 音にリバーブ効果を加える。 9
◇ EQ（イコライザー）で音質を切り替える。 10
4）デモ曲の演奏 11
◇ Classic Grand の音色デモをコンプリート版で演奏したい場合 11
5）コンサートマジック 12
◇ コンサートマジックの選曲 12
◇ コンサートマジックの演奏 12
◇ コンサートマジックの再生 13
6）タッチカーブの選択 13
7）トランスポーズ 14
8）メトロノーム 15
◇ 拍子の設定 15
◇ テンポの設定 15
◇ 音量の設定 16
3.録音・再生 17
1）録音 17
◇ ソング 1 のパート 1 に録音をしましょう。 17
◇ ひき続き、ソング 1 のパート 1 に録音した演奏を
聞きながら、パート 2 に録音してみましょう。 19
2）再生 20
◇ パートのミュート 20
3）パートのデータの消去 21
4.設定モード（ファンクション） 22
◇ 設定モードの基本的な使い方 22
① チューニング 23
◇ MIDI 機能の使い方 24
◇ 本機 MIDI 機能 24
② MIDI 送信・受信チャンネル 25
③ ローカルコントロール オン / オフ 25
④ マルチティンバー・モード オン / オフ 26
⑤ プログラム（音色）ナンバー送信 オン / オフ 26
⑥ プログラム（音色）ナンバー送信 27
5. 付　録 28
1）外部機器との接続 28
◇ 接続ケーブルの仕様 29
2）主な仕様 30
◇ 付属品一覧 30
◇ MIDI IMPLEMENTATION CHART 31

◆安全上の注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使い下さい。
ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守って下さい。表示と意味は次のようになっています。製品本体に表示されているマークには次のような意味があります。



注意：火災や感電防止のため、本体を雨や湿気の多いところに、さらさないで下さい。

このマークは、感電の危険があることを警告しています。

このマークは、注意喚起シンボルです。取扱説明書等に、一般的な注意、警告の説明が記載されていることを表しています。

⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容が記載されています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

絵表示の例

△記号は注意（用心してほしい）を促す内容があることを告げるものです。左図の場合は「指を挟まないよう注意」が描かれています。

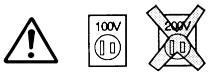
○記号は禁止（行ってはいけない）の行為であることを告げるものです。左図の場合は「分解禁止」が描かれています。

●記号は強制（必ず実行してほしい）したり、指示する内容があることを告げるものです。左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜く」が描かれています。

⚠ 警告

◆電源は、必ずAC100Vを使う

100V以外禁止



●電圧の異なる電源を使用しないで下さい。
●発火の恐れがあります。

◆水に濡れた手で、電源プラグを抜き差ししない

濡れた手で触らない

●感電の原因になります。

◆水がかかる場所で使用したり、水に濡らす（つける,かける,こぼす）などしない

●漏電によって、感電や発火の原因になります。

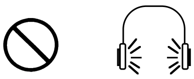
◆本機の上に乗ったり倒したりしない

落とさない

●運搬の際は、必ず２人以上で運んで下さい。

◆ヘッドホンは、大音量で長時間使用しない

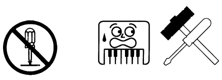
長時間使用禁止



●聴力低下の原因になる恐れがあります。

◆本機を分解、修理、改造しない

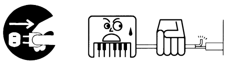
分解禁止



●故障、感電、ショートの原因になります。

◆電源プラグを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜く

プラグ部分を持つ



●コードを引っ張るとコードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

◆長時間使用しない時は必ず電源プラグを抜く

プラグを抜く

●落雷時に火災の原因になります。

◆イスは次のように使用しない

●イスで遊んだり、踏み台にしない
●イスには2人以上で座らない
●イスの高さ調節は、イスから降りて行う（調節機能付きの場合）
●イス組立時、ネジをしっかり締める

使用しない

●イスが倒れたり、指をはさむ恐れがあり、けがの原因になります。

⚠注意

◆本機を次のような所では使用しない

●窓際など直射日光の当たる場所
●暖房器具のそばなど極端に温度の高い場所
●戸外など極端に温度の低い場所
●極端に湿度の高い場所
●砂やホコリの多い場所
●振動の多い場所

使用禁止

●故障の原因になります。

◆コード類を接続するときは、各機器の電源を切って行う

電源を切る

●本機や接続機器の故障の原因になります。

◆本機の内部に異物を入れないようにする

異物を入れない

●水、針、ヘアピン等が入ると、故障やショートの原因になります。

◆テレビやラジオ等の電気機器の側に置かない

他電気機器から離す

●本機が雑音を発する恐れがあります。
●本機が雑音を発したら、他の電気機器から十分に離すか、他のコンセントをご利用下さい。

◆電源コード、接続コード類はからまないように接続する

からまないようにする

●コードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

◆ベンジンやシンナーで本機を拭かない

ベンジン／シンナー禁止

●色落ちや、変形の原因になります。
●清掃するときは、柔らかい布をぬるま湯につけて、よく絞ってから拭いて下さい。

◆本機の上に乗ったり、圧力を加えない

上に乗らない

●変形したり、倒れる恐れがあり、故障や、けがの原因になります。

●ヘッドホン使用時、または音量下げて演奏の際は、構造上打鍵音（メカニズム音）が若干聞こえますが異常ではありません。ご了承ください。

●容易にコンセントの抜き差しができるよう、本機を電源コンセントの近くに設置してください。

●音色ボタンランプが消えていても、コンセントを差し込んだ状態であれば、機器に電源がつながっていますので感電に注意ください。

■保証書について

●本製品をお買い求めの際、販売店で必ず保証書の手続きを行って下さい。保証書に販売店の印やお買い上げ日の記入が無い場合は、保証期間中でも修理が有償になることがあります。

●保証書は、本取扱説明書と共に大切に保管下さい。

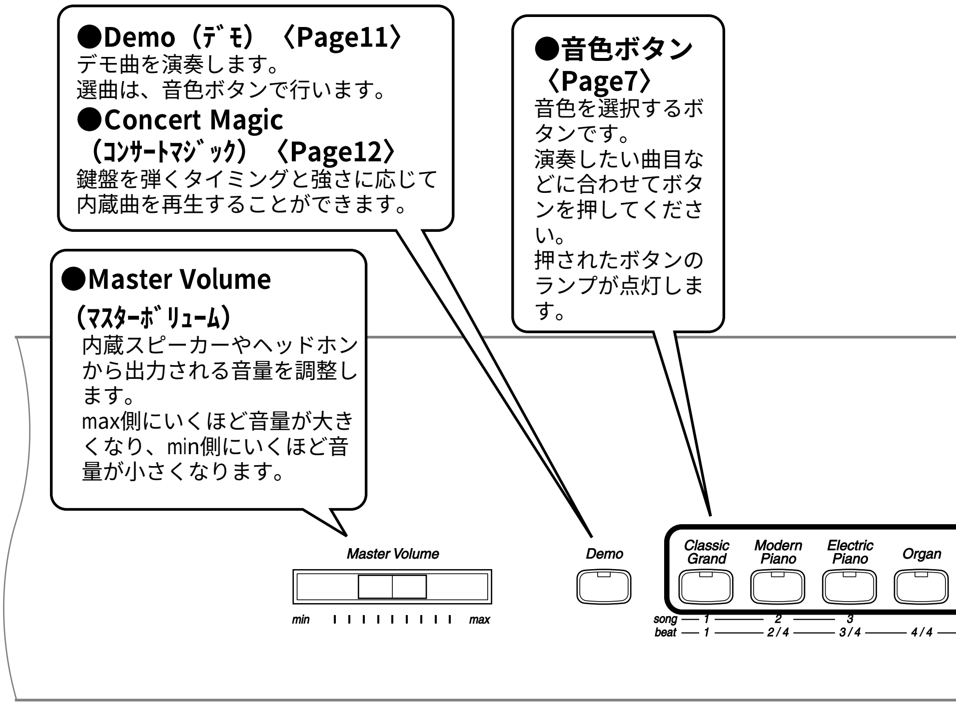
■修理について

●万一異常がありましたら直ちに電源スイッチを切り、本機の電源プラグを抜いて、購入店または弊社へご連絡下さい。

1.各部の名称と働き

電子ピアノに付いている、レバーやボタンなどの位置とその機能を説明します。

◇ 操作パネル



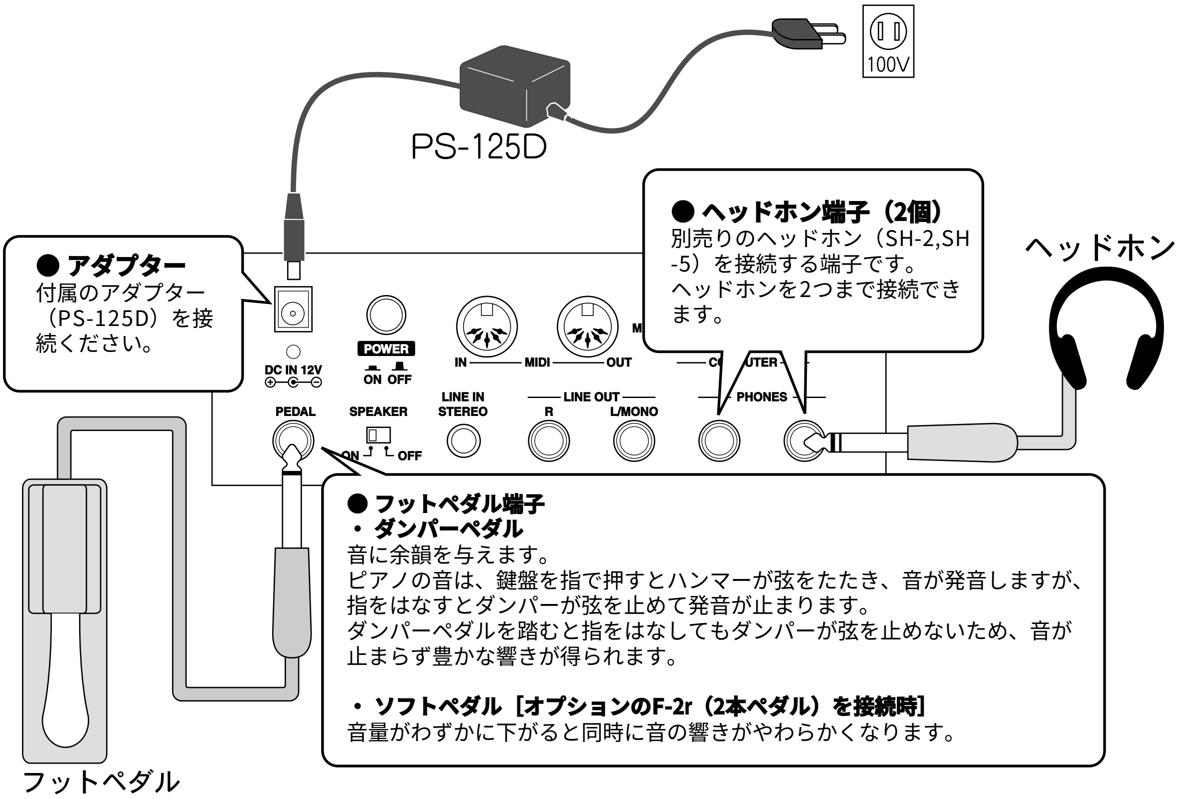
●Demo（デモ）〈Page11〉
デモ曲を演奏します。
選曲は、音色ボタンで行います。

●Concert Magic（コンサートマジック）〈Page12〉
鍵盤を弾くタイミングと強さに応じて内蔵曲を再生することができます。

●音色ボタン〈Page7〉
音色を選択するボタンです。
演奏したい曲目などに合わせてボタンを押してください。
押されたボタンのランプが点灯します。

●Master Volume（マスターボリューム）
内蔵スピーカーやヘッドホンから出力される音量を調整します。
max側にいくほど音量が大きくなり、min側にいくほど音量が小さくなります。

◇ AC アダプター / フットペダル / ヘッドホンの接続

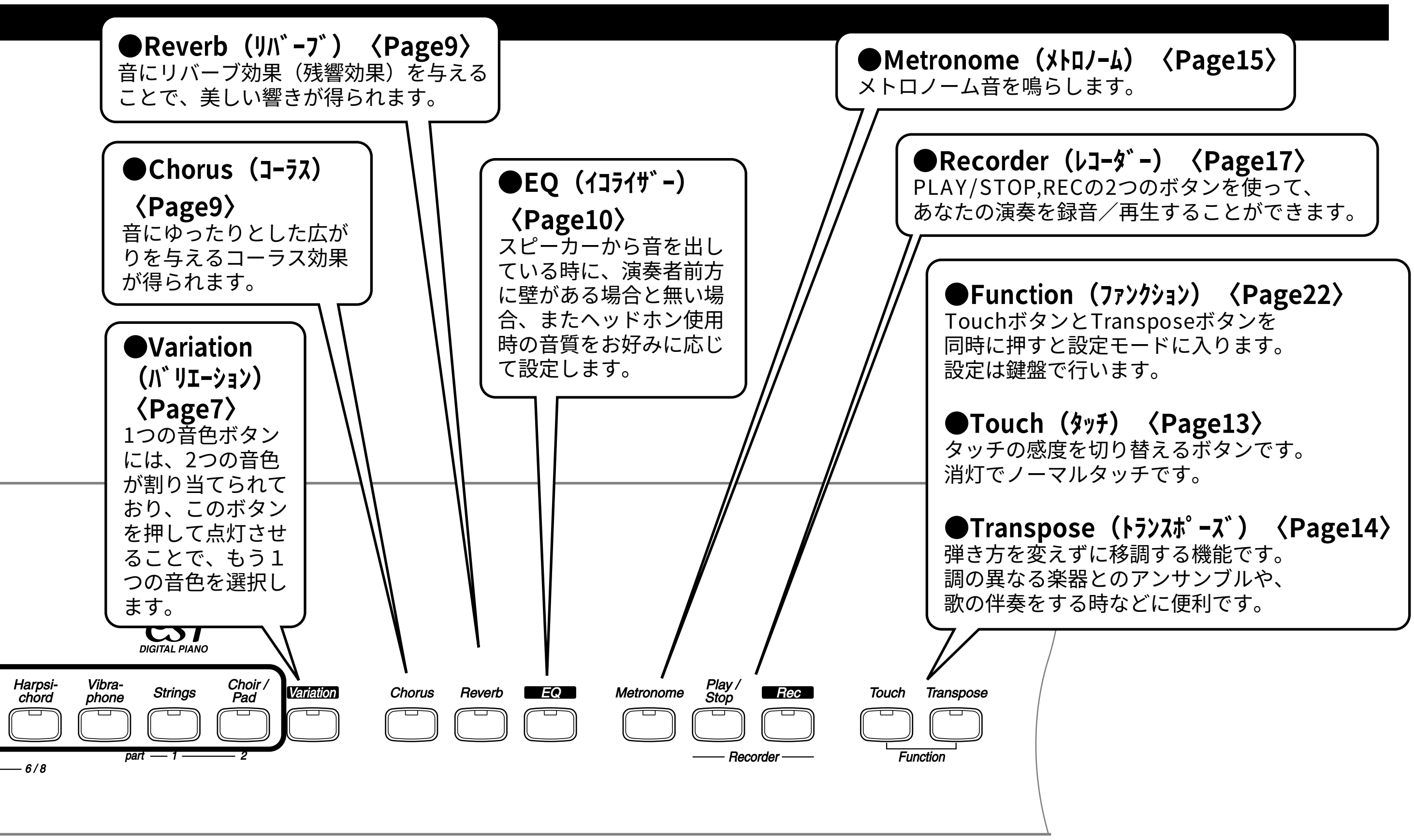


● アダプター
付属のアダプター（PS-125D）を接続ください。

● ヘッドホン端子（2個）
別売りのヘッドホン（SH-2,SH-5）を接続する端子です。
ヘッドホンを2つまで接続できます。

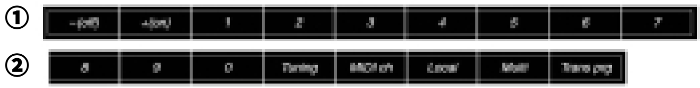
● フットペダル端子
・ ダンパーペダル
音に余韻を与えます。
ピアノの音は、鍵盤を指で押すとハンマーが弦をたたき、音が発音しますが、指をはなすとダンパーが弦を止めて発音が止まります。
ダンパーペダルを踏むと指をはなしてもダンパーが弦を止めないため、音が止まらず豊かな響きが得られます。

・ ソフトペダル［オプションのF-2r（2本ペダル）を接続時］
音量がわずかに下がると同時に音の響きがやわらかくなります。

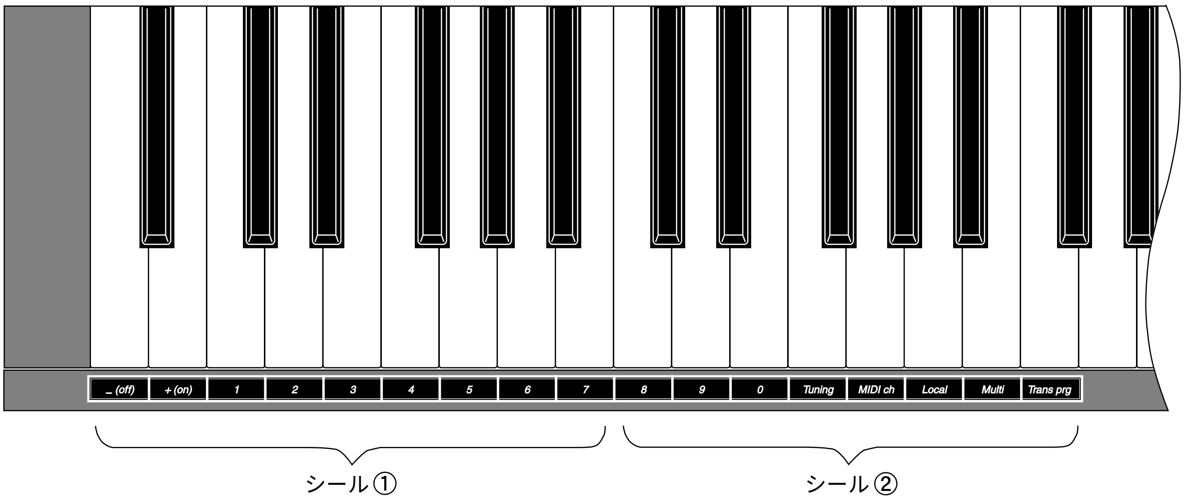


◇ 付属ファンクションシールの使用

本機には、ファンクションシールが 2 枚付属されています。



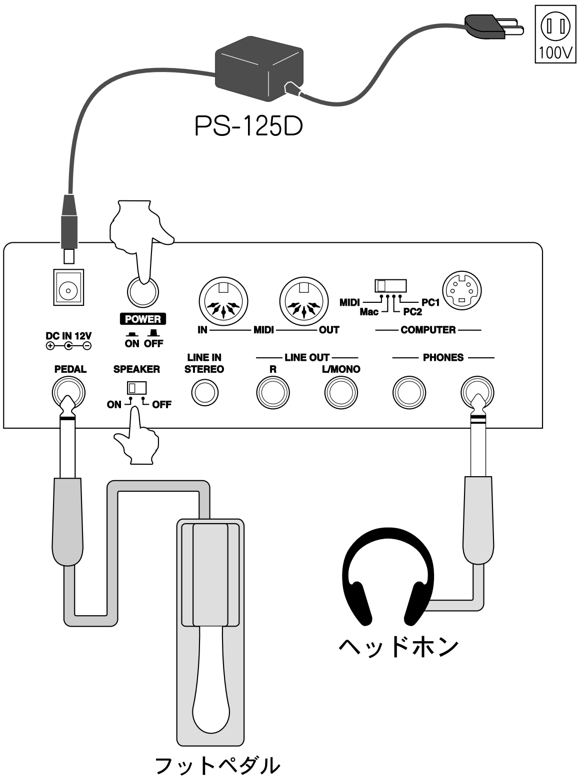
設定モードなどで値を設定するときなどに、鍵盤の前側に貼ると便利です。
シール①の「ー（off)」を最低音の鍵盤に合わせて貼ります。
シール②は「8」を C2 の鍵盤に合わせて貼ります。.



2.演奏してみましょう

ここでは、電源を入れて音を出すまでの基本的な手順を説明します。

1）基本操作



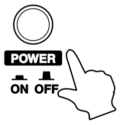
□ ***操作1***

付属のACアダプターを本体のアダプター端子に差し込み、電源プラグをAC100Vのコンセントに差し込みます。

本体向かって左側面にある DC IN 12V のところに
アダプター端子を差し込みます。

□ ***操作2***

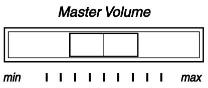
POWER（電源）スイッチを押して電源をONにします。



電源を入れると音色セレクト
ボタン の Classic Grand ボタンの
ランプが点灯します。

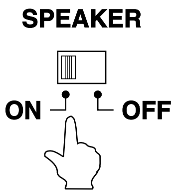
□ ***操作3***

VOLUMEレバーを中央付近にセットします。



□ ***操作4***

本体のスピーカーから音を出すか出さないかの設定ができます。



スピーカーから音を出す場合は、ON の方にセットします。

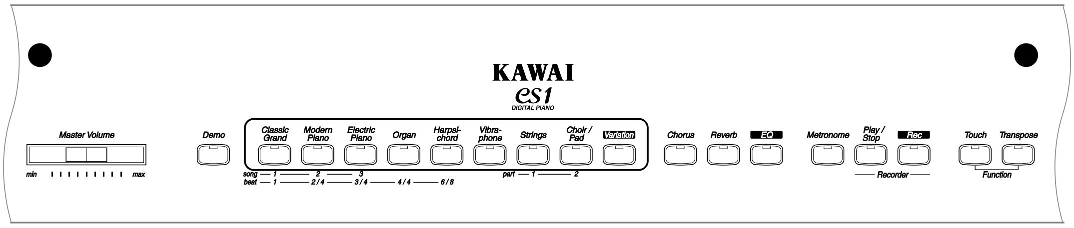
□ ***操作5***

フットペダルやヘッドホンを使用する場合は、各々PEDAL端子、PHONES端子に接続します。

ヘッドホンは、2 つまで接続できます。
ペダル端子は、オプションの 2 本ペダル（F-2r）の接続も可能です。

◇ 音色の選び方

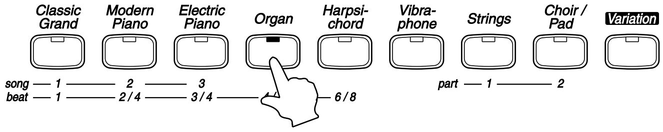
パネルには、8 個の音色ボタンと 1 つの Variation ボタンがあります。
本機は、各音色ボタンに 2 つの音色が割り当てられており、合計 16 音色を内蔵しています。



- ◆ Classic Grand〔ｸﾗｼｯｸｸﾞﾗﾝﾄﾞ〕
- ◆ Modern Piano〔ﾓﾀﾞﾝﾋﾟｱﾉ〕
- ◆ Electric Piano〔ｴﾚｸﾄﾘｯｸﾋﾟｱﾉ〕
- ◆ Organ〔ｵﾙｶﾞﾝ〕
- ◆ Harpsichord〔ﾊｰﾌﾟｼｺｰﾄﾞ〕
- ◆ Vibraphone〔ﾋﾞﾌﾞﾗﾎﾝ〕
- ◆ Strings〔ｽﾄﾘﾝｸﾞｽ〕
- ◆ Choir/Pad〔ｸﾜｲﾔｰ/ﾊﾟｯﾄﾞ〕

◇操作 1

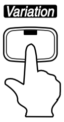
好きな音色 ボタンを押します。



押された音色ボタンのランプが点灯し、選択されます。

Variation ボタンを押して点灯させることによって、
各ボタンのバリエーション音色を選択することができます。
Variation ボタンの点灯時はバリエーション音色が選択されています。

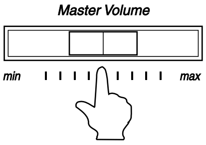
点灯

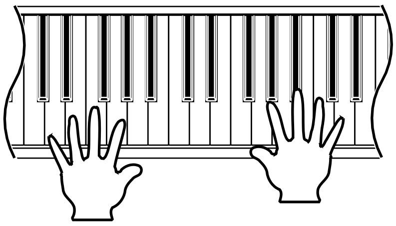


◇操作 2

鍵盤を弾いてみましょう。

操作 1 で選んだ音色が発音します。
VOLUME レバー でお好みの音量に設定して下さい。





■複数の鍵盤を同時に押した時の発音数（同時発音数）は、最大 32 音です。

2）デュアル演奏

デュアル演奏では 2 つの音色を重ね合わせて演奏する事ができます。鍵盤を弾けば、選んだ 2 つの音色が同時に発音し、音に独特の厚みを与えることができ音楽表現の幅が拡がります。

☐ 操作 1

2 つの音色ボタンを同時に押します。

押された 2 つの音色ランプが点灯します。

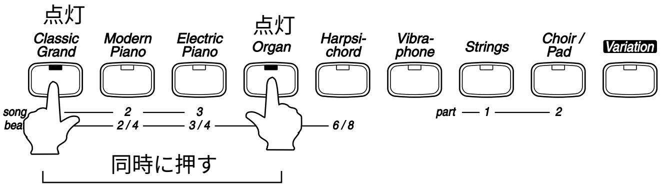
片方の音色をバリエーション音色にする場合は、デュアル演奏を行う前にあらかじめバリエーション音色を選択しておいてください。

両方または片方の音色でバリエーション音色が選ばれている場合は、Variation ボタンが点灯します。
その後、Variation ボタンを押すことで、両方の音色を同時に切り替えることができます。

◆クラシックグランドとオルガンの音を重ねる場合

☐ 操作 1

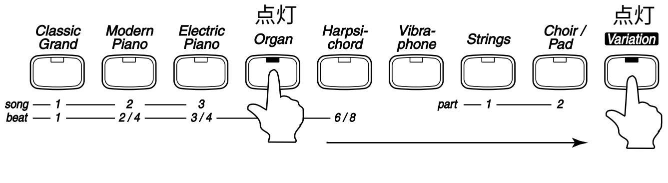
Classic Grand ボタンと Organ ボタンを同時に押します。



◆クラシックグランドとオルガンのバリエーション音色を重ねる場合

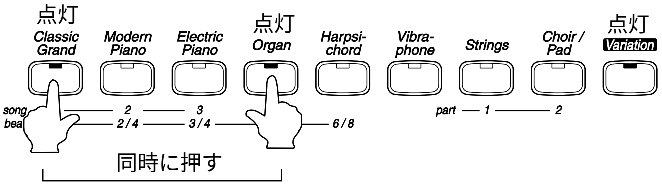
☐ 操作 1

あらかじめオルガンのバリエーション音色を選択します。。



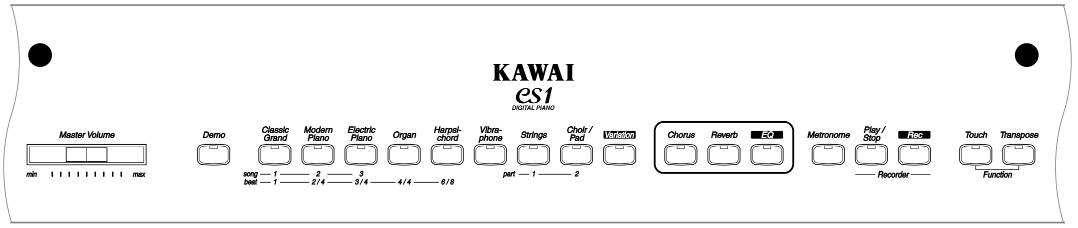
☐ 操作 2

Classic Grand ボタンと Organ ボタンを同時に押します。



3）コーラス / リバーブ / イコライザー

本機では、各音色毎に 3 種類の効果（エフェクト）を加えることができます。
デュアル演奏時は、先に選択した音色に設定されているエフェクトが有効となります。



◇ 音にコーラス効果を加える。

コーラスは、元々の音にピッチの揺らぎをもつ音を合わせることにより、音に広がりを加えます。

□ 操作 1

Chorus ボタンを押します。

Chorus ボタンのランプが点灯し、音にコーラス効果を加えます。
再度 Chorus ボタンを押してランプを消灯させれば、コーラスが解除されます。

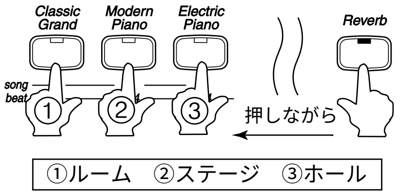
◇ 音にリバーブ効果を加える。

リバーブは、音に残響効果を加え、深みのある美しい響きを得られます。
3 種類のリバーブを内蔵しています。

・ルーム	：部屋での残響音をシミュレートしています。
・ステージ	：ステージでの残響音をシミュレートしています。
・ホール	：ホールでの残響音をシミュレートしています。

□ 操作 1

Reverbボタンを押しながら、Classic Grand, Modern Piano, Electric Piano のいずれかのボタンを押します。

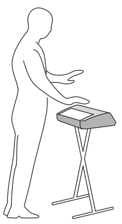
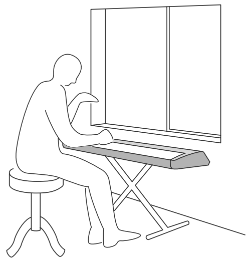
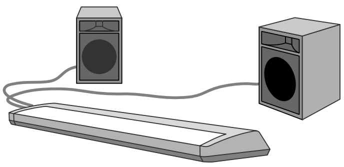


Classic Grand, Modern Piano, Electric Piano ボタンを押して、ルーム , ステージ , ホールを選択します。
Reverb ボタンを押している間、選ばれているボタンが点滅して現在選択されているリバーブの種類を示します。
Reverb ボタンのランプが点灯し、音に効果を加えます。
再度 Reverb ボタンを押してランプを消灯させれば、解除されます。

◇ EQ（イコライザー）で音質を切り替える。

本機では、設置する環境にあわせて音質を切り替えることが可能です。
下図を参考に自分の好みにあった EQ をお選び下さい。
また、ヘッドホン接続時には、ヘッドホン用拡がり効果がかかります。この場合も同じく下図を参考に自分の好みにあった EQ を選ぶことができます。

【ヘッドホンを接続しない場合】

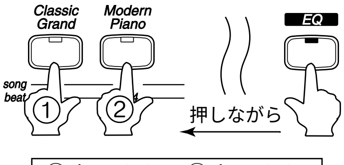
EQ オフ	EQ オン＜１＞	EQ オン＜２＞
壁から離れた場所に設置した時や、本機の後ろで聴く人がいる時にお薦めです。	壁の近くに設置した時にお薦めです。	ラインアウト端子を外部スピーカーやステージのPAに接続する時にお薦めです。
		

【ヘッドホンを接続した場合】

EQ オフ	EQ オン＜１＞	EQ オン＜２＞
通常のヘッドホンをお使いの方にお薦めします。 ヘッドホン用拡がり効果がかかります。	ヘッドホンの高音が足りない時にお薦めです。 ヘッドホン用拡がり効果と高音強調効果がかかります。	ヘッドホンへの効果がかかりません。

□ 操作 1

EQ ボタンを押しながら、Classic Grand, Modern Piano ボタンのいずれかのボタンを押します。

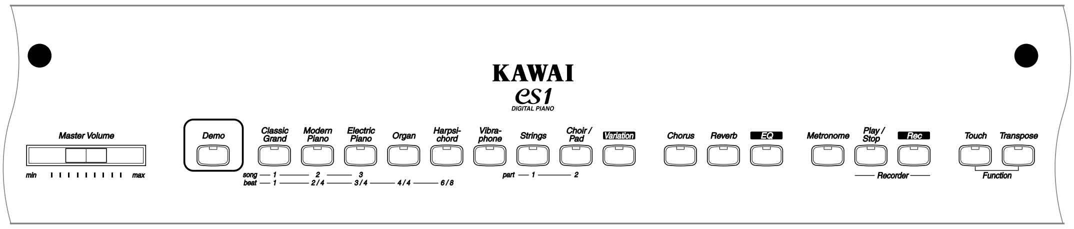


①オン＜1＞　②オン＜2＞

Classic Grand, Modern Piano ボタンは、オン 1/ オン 2 に割り当てられます。
EQ ボタンを押している間、現在選ばれている EQ の音色ボタンが点滅します。
ここで設定した EQ は、EQ ボタン点灯時に有効になります。
EQ ボタン消灯時は、EQ オフです。
電源オン時は、EQ オン＜１＞が設定されていますので、EQ ボタンを押して点灯させると EQ オン＜１＞が選択されます。

4）デモ曲の演奏

本機には、各内蔵音色毎にその音色を生かしたデモ曲（クラシックグランドの音色デモを 8 曲、他の音色は各 1 曲）を 15 曲内蔵しています。
クラシックグランドのデモ曲の演奏方法には、サビ部分のみを演奏するダイジェスト版と、全曲を再生するコンプリート版の 2 種類があります。



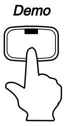
各音色のデモ曲は、以下の通りです。

〔音色ボタン〕	〔曲名〕	〔作曲者〕
◆Classic Grand	energy flow	（坂本龍一）
	TSUNAMI	（桑田佳祐）
	すき	（吉田美和）
	Father & Son	（スティーブ・バラカット）
	星に願いを	（リー・ハーライン）
	もののけ姫	（久石譲）
	別れの曲	（ショパン）
	アラベスク第一番	（ドビュッシー）

〔音色ボタン〕	〔曲名〕	[作曲者]
◆Modern Piano	オリジナル	―
◆E.Piano	オリジナル	―
◆Organ	トッカータ	（ジグー）
◆Harpsichord	フランス組曲 第 6 番	（バッハ）
◆Vibraphone	オリジナル	―
◆Strings	四季より「春」	（ビバルディ）
◆Choir/Pad	オリジナル	―

□ 操作 1

Demo ボタンを押します。



Demo ボタンのランプが点灯し、Classic Grand ボタンが点滅すると同時に、Classic Grand のデモ曲がサビ部分のみを演奏するダイジェスト版で演奏されます。8曲のClassic Grandのデモ演奏終了後、つづけて各音色のデモ曲がランダムに演奏されます。
再度 Demo ボタンを押すまで演奏を繰り返します。

□ 操作 2

操作 1 でデモ曲演奏中に、音色ボタンを押して、曲を変更することができます。

再生中、他の音色ボタンを押せば、その押された音色ボタンの音色デモが再生されます。
Classic Grandの音色デモの場合は、Classic Grandボタンを繰り返し押すことにより、次の曲を選ぶことができます。
例えば、「星に願いを」を選曲する場合には、Classic Grand のボタンを 4 回押してください。

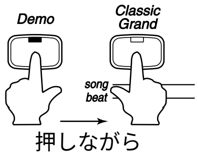
◇ Classic Grand の音色デモをコンプリート版で演奏したい場合

□ 操作 1

Demo ボタンを押しながら、Classic Grand ボタンを押します。

■コンプリート版は、曲を最初から最後まで演奏します。

■「別れの曲」「アラベスク第一番」は、この操作の場合でもダイジェスト版で演奏されます。



5）コンサートマジック

コンサートマジックでは、１つの鍵盤だけでテンポ , 曲の強弱をコントロールしながら演奏できるため、簡単でありながら音楽的な表現が可能な機能です。
本機には、コンサートマジック用に 40 曲の演奏曲を内蔵しています。

最低音

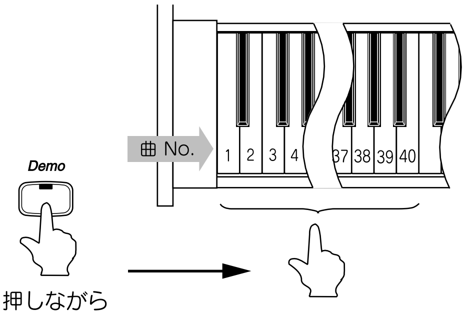
No.	鍵盤	曲名
1	A	きらきら星
	A#	
2	B	メリーさんのひつじ
3	C	ロンドン橋
	C#	
4	D	10人のインディアン
	D#	
5	E	ブラームスの子守歌
6	F	茶色の小瓶
	F#	
7	G	ワラの中の七面鳥
	G#	
8	A	山の音楽家
	A#	
9	B	ジングルベル
10	C	もろ人こぞりて
	C#	
11	D	きよしこの夜
	D#	
12	E	おめでとうクリスマス
13	F	グリーン・スリーブス
	F#	
14	G	アメージング・グレース
	G#	
15	A	喜びの歌（交響曲第9番「合唱」より）/ ﾍﾞｰﾄｰﾍﾞﾝ
	A#	
16	B	眠りの森の美女/ﾁｬｲｺﾌｽｷｰ
17	C	花のワルツ（「くるみ割り人形」より）/ ﾁｬｲｺﾌｽｷｰ
	C#	
18	D	闘牛士の歌（「ｶﾙﾒﾝ」組曲より）/ ﾋﾞｾﾞｰ
	D#	
19	E	ウィリアムテル序曲/ ﾛｯｼｰﾆ
20	F	家路（交響曲第9番「新世界から」より）/ ﾄﾞﾎﾞﾙｻﾞｰｸ
	F#	
21	G	リパブリック賛歌
	G#	
22	A	アルプス一万尺
	A#	
23	B	峠の我が家
24	C	草競馬
	C#	
25	D	聖者の行進
	D#	
26	E	ケンタッキーの我が家
27	F	線路は続くよどこまでも
	F#	
28	G	おじいさんの古時計
	G#	
29	A	さくらさくら
	A#	
30	B	もみじ
31	C	おぼろ月夜
	C#	
32	D	浜辺のうた
	D#	
33	E	ゆき
34	F	蛍の光
	F#	
35	G	婚礼の合唱 / ワグナー
	G#	
36	A	結婚行進曲 / メンデルスゾーン
	A#	
37	B	アニー・ロリー
38	C	フニクリ・フニクラ
	C#	
39	D	サンタ・ルチア
	D#	
40	E	こぎつね

◇ コンサートマジックの選曲

40 曲のコンサートマジック曲は、鍵盤に割り当てられており、この鍵盤を使って曲を選択することができます。

☐ **操作 1**

Demoボタンを押しながら曲が割り当てられている鍵盤を押します。



◇ コンサートマジックの演奏

好みのテンポで鍵盤を弾くと、そのタイミングで曲が進んでいきます。
また、鍵盤を弾くタッチによって強弱をつけることもできます。

☐ **操作 1**

コンサートマジックの選曲後、鍵盤を弾きます。

通常の音色変更の場合と同様の操作で、音色を変更することができます。

☐ **操作 2**

再度Demoボタンを押せば、通常の演奏状態に戻ります。

※本機に内蔵してあるコンサートマジック曲全曲を含む、コンサートマジック曲集をオプションとして用意しております。
詳しくは、同梱の「コンサートマジック曲集」のご案内をご覧下さい。

◇ コンサートマジックの再生

普通のデモ曲として再生することができます。
どんな曲かまず聴いてみたいときに便利な機能です。

☐ 操作1

コンサートマジックの選曲後、Play/Stop ボタンを押します。

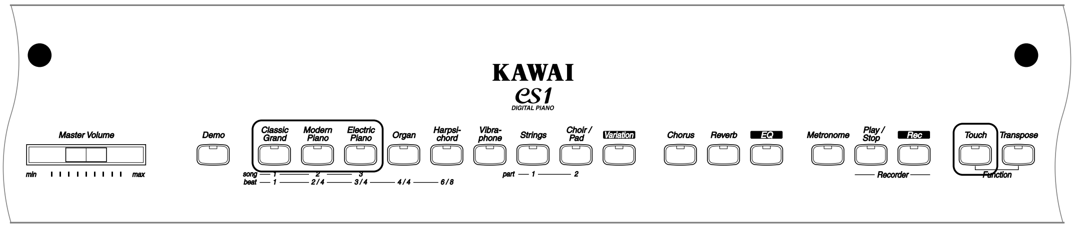
選択されている曲が再生され、その後順番に他の内蔵曲を演奏します。
最後の 40 曲目が演奏された後は、つづけて 1 曲目から 40 曲目まで順番に繰り返し再生します。
演奏を止めるときは、再度 Play/Stop ボタンを押します。

☐ 操作2

再度 Demo ボタンを押せば、通常の演奏状態に戻ります。

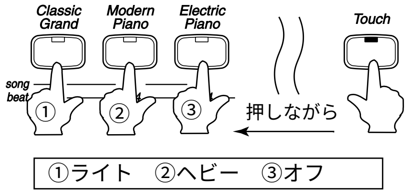
6) タッチカーブの選択

ピアノでは、鍵盤を弾く力をだんだん強くしていくと、音量もだんだん大きくなっていきます。
鍵盤を弾く強さと音量の関係を線グラフにしたものがタッチカーブです。（下グラフ参照）
本機では、4 種類のタッチカーブを装備しています。



☐ 操作1

**Touch ボタンを押しながら、
Classic Grand, Modern Piano, Electric Piano ボタンの
いずれかを押します。**

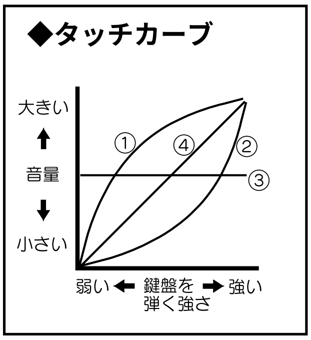


①ライト［ Classic Grand を押す］
弱いタッチで弾いても大きな音がでます。
小さなお子様や、オルガンプレーヤー向きのタッチカーブです。

②ヘビー［Modern Piano を押す］
強いタッチで弾かないと大きな音がでません。
指の力の強い人や練習向きのタッチカーブです。

③オフ［Electric Piano を押す］
鍵盤を弾く強さに関係なく、常に一定の大きさで発音します。

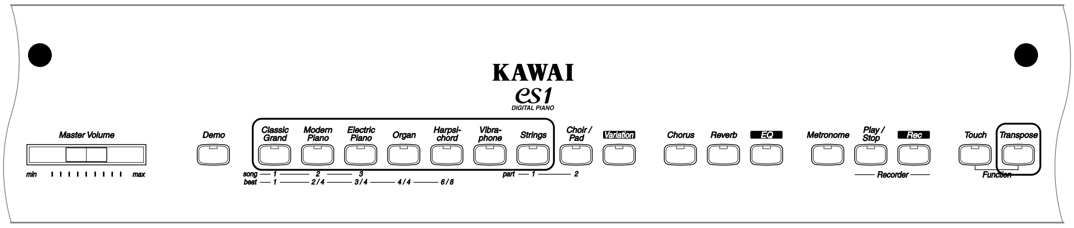
④ノーマル［Touch ボタン消灯時］
アコースティックピアノと同程度のタッチで音量が変化します。



***Touch ボタンを押している間、現在選ばれているタッチカーブの音色ボタンが点滅します。
ここで設定したタッチカーブは、Touch ボタン点灯時に有効となります。
Touch ボタン消灯時は、ノーマルに設定されています。
電源を入れて Touch ボタンを押すとライトのタッチカーブに設定されています。***

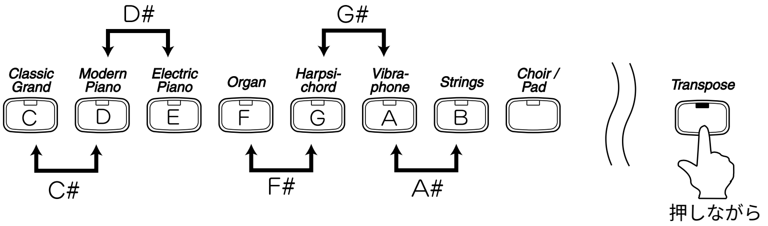
7）トランスポーズ

調の異なる楽器とのアンサンブル演奏や歌の伴奏をするときに、弾き方を変えずに簡単に移調できます。本機では、Transpose ボタン を押しながら音色ボタンを押すことで、-3 音(F#)〜 +2 音半(F)まで設定できます。



□ 操作 1

Transpose ボタン を押したまま、変更したい調の音色ボタンを押します。



● Classic Grand ボタン を押す。	±0音	(C)
● Classic Grand, Modern Piano ボタン を同時に押す。	＋半音	(C#)
● Modern Piano ボタン を押す。	＋１音	(D)
● Modern Piano, Electric Piano ボタン を同時に押す。	＋１音半	(D#)
● Electric Piano ボタン を押す。	＋２音	(E)
● Organ ボタン を押す。	＋２音半	(F)
● Organ, Harpsichord ボタン を同時に押す。	−３音	(F#)
● Harpsichord ボタン を押す。	−２音半	(G)
● Harpsichord, Vibraphone ボタン を同時に押す。	−２音	(G#)
● Vibraphone ボタン を押す。	−１音半	(A)
● Vibraphone, Strings ボタン を同時に押す。	−１音	(A#)
● Strings ボタン を押す。	−半音	(B)

■ ***Transposeボタン を押しているとき、現在セットされている調の音色ボタンのランプが点滅します。***

■ ***電源オン時はハ長調（C）に設定されます。***

■ ***トランスポーズは、鍵盤を押した状態では、設定できません。***

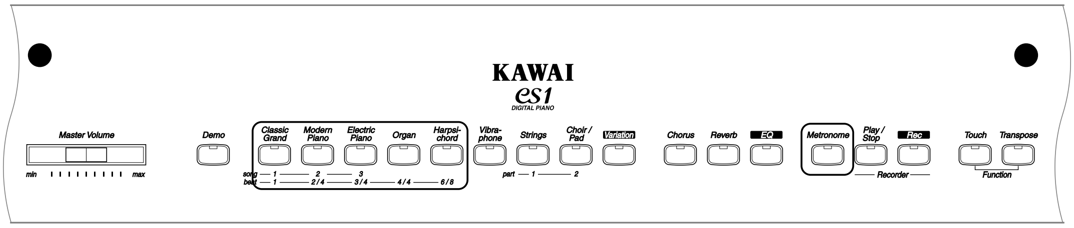
□ 操作 2

Transpose ボタン を離します。

■ ***Transpose ボタンのランプの点灯は、トランスポーズ オン（移調）状態を表わします。消灯時は、オフの状態です。***
■ ***トランスポーズを解除したい時は、もう一度 Transpose ボタン を押してランプを消灯します。***
■ ***Transpose ボタン のランプは、ハ長調（C）以外のキーにセットされている時に点灯します。***

8）メトロノーム

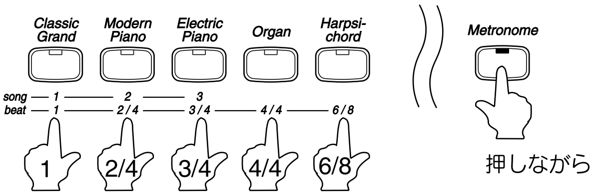
メトロノームを使って練習しましょう。
本機では、1 拍子 ,2/4 拍子 ,3/4 拍子 ,4/4 拍子 ,6/8 拍子が設定できます。



◇拍子の設定

□ 操作 1

Metronome ボタンを押しながら、次のいずれかの音色ボタンを押し、拍子を指定します。



■ 4/4 拍子のメトロノームを鳴らす場合は、Metronome ボタンを押しながら、Organ ボタン を押します。

■ 電源オン時、Metronome ボタンを押した後、音色ボタンで拍子を指定しなければ、自動的に、4/4 拍子 , テンポ 120 のメトロノームが発音します。

◇テンポの設定

□ 操作 1

メトロノームのテンポ変更は、Metronome ボタンを押しながら、
鍵盤を押します。

同梱のファンクションシールを使うと便利です。（Page...5参照）

鍵盤には、「＋ , － ,0 ～ 9」が割り当てられています。
設定は、テンポの値を 2 桁～ 3 桁で入力します。
♩ = 30 ～ 300 の範囲で設定できます。
テンポの値の初期値は ♩ = 120 です。

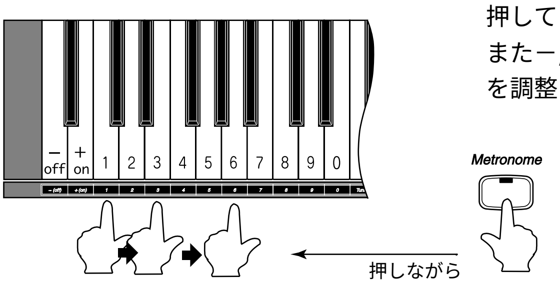
□ 操作 2

再度、Metronome ボタンを押して消灯させると、メトロノームが停止します。

◆テンポを「136」に設定したい場合

☐ 操作１

Metronome ボタンを押しながら、「1」「3」「6」の鍵盤を押します。

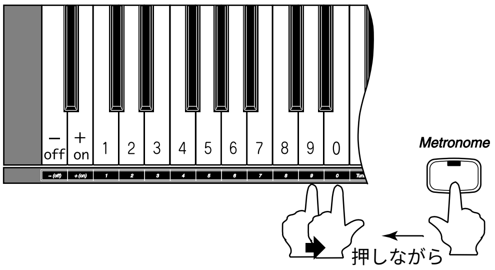


押している Metronome ボタンを離すと設定が完了します。
また－/＋キーをおすことによって現在のテンポから少しテンポを調整することができます。

◆テンポを「90」に設定したい場合

☐ 操作１

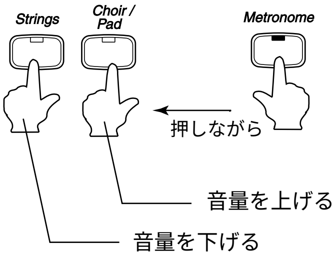
Metronome ボタンを押しながら、「9」「0」の鍵盤を押します。



◇ 音量の設定

☐ 操作１

Metronome ボタンを押しながら、
Strings ボタンを押すたび音量が下がり
Choir/Pad ボタンを押すたび音量が上がります。



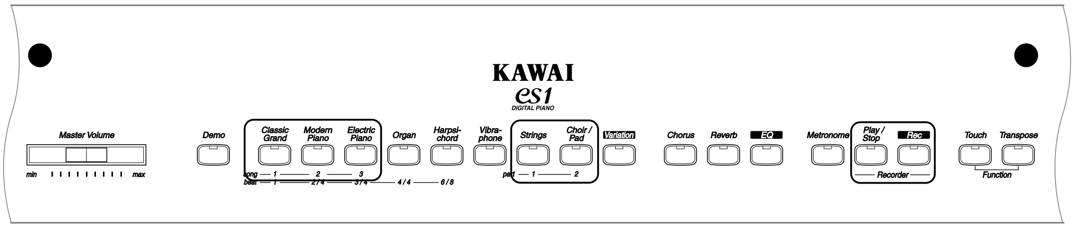
5 段階で調節できます。

電源オン時は、5 段階の 3 番目の音量が設定されます。

3.録音・再生

1）録音

本機では、自分の演奏を 3 曲まで、録音し再生することができます。
それぞれの曲（ソング）は、2 つのパートから構成されており、1 ソングに 2 回の演奏を録音できます。
録音は、録音するソングとそのパートを選択して行います。
song ボタン と part ボタン は、音色ボタンに割り付けられています。

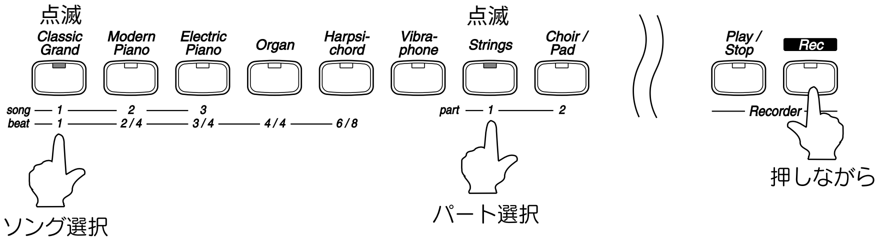


◇ ソング 1 のパート 1 に録音をしましょう。

□ 操作 1

Rec ボタン を押しながら , ソングとパートを選択します。

Rec ボタンを押したままの状態で、song ボタンとその part ボタンが各 1 コづつ点滅します。
この点滅しているボタンが録音の行われるソングとパートです。
下図では、ソング 1 のパート 1 が選択されています。
ソング 1 のパート 1 が選択されていない場合は、song 1ボタン（Classic Grand ）と part 1 ボタン（Strings）を押して点滅させてください。



■ソング 2 に録音する場合は、Rec ボタン を押したままの状態で song2 ボタン（Modern Piano)、ソング 3 に録音する場合は song3 ボタン（Electric Piano）を押して点滅させます。
また、同様に Strings ボタンと Choir/Pad ボタンで録音パートを選択できます。

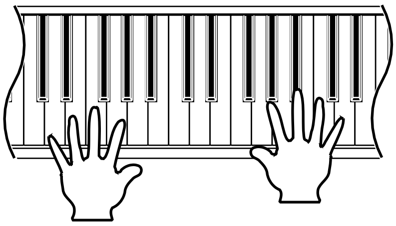
□ 操作 2

Rec ボタン を離します。

点滅していた song ボタン と part ボタン のランプが消灯すると同時に、Rec ボタン のランプが点滅し、録音待機状態となります。
また、同時に音色のランプ（以前に選択されていた音色）が点灯します。
ここで、音色ボタンを押して録音を行う音色を選択できます。
録音を中止する場合は、再度 Rec ボタン を押してランプを消灯させます。

☐ **操作 3**

鍵盤を弾いて録音をスタートします。

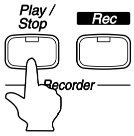


鍵盤を弾くと自動的に録音がスタートします。
このとき、Rec ボタンと Play/Stop ボタン のランプが
点灯します。

■ ***Play/Stop ボタン を押しても録音を開始できます。***

☐ **操作 4**

演奏が終わったら Play/Stop ボタン を押して録音を終了します。

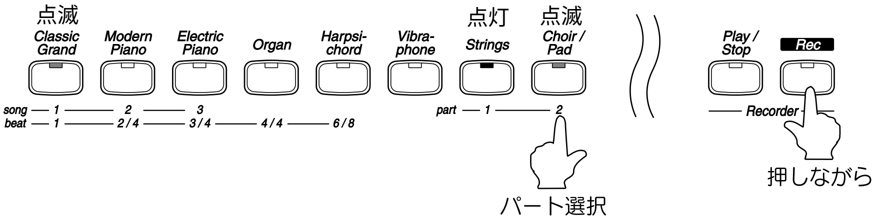


Rec ボタン と Play/Stop ボタン のランプが消え録音が停止します。

◇ ひき続き、ソング 1 のパート 1 に録音した演奏を聞きながら、パート 2 に録音してみましょう。

□ 操作 1

Rec ボタン を押しながら、part 2 ボタン（Choir/Pad ボタン ）を押します。



Rec ボタンを押している間、指定した song1 ボタン と part 2 ボタン のランプが点滅し、録音待機状態であることを示します。
また、part 1 ボタン のランプが点灯していますが、これは既に録音したパート 1 が再生待機状態であることを示しています。
Rec ボタンを離すと、音色選択状態を示す、ランプ表示に戻ります。

■ ***操作1でpart2ボタンを押す前は、まだパート1が選択されており、Recボタン を押したときは、先に録音したsong1 ボタン と part 1 ボタン のランプが点滅しています。　そのまま録音すると part1 にデータが上書きされ、前のデータが消えてしまいます。***

□ 操作 2

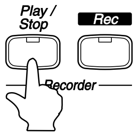
鍵盤を弾きパート 2 への録音を開始します。

鍵盤を弾くと自動的にパート 2 の録音が開始され、同時にパート 1 の演奏が再生されます。
このとき Rec ボタンと Play/Stop ボタン のランプが点灯します。

■ ***鍵盤を弾かずに Play/Stop ボタン を押して録音をスタートさせることもできます。***

□ 操作 3

Play/Stop ボタン を押し録音を終了します。



Rec ボタン と Play/Stop ボタン のランプが消え、パート 2 の録音とパート 1 の再生がストップします。

■ ***レコーダーの総記憶容量は、約 1,800 音です。録音中に記憶容量が一杯になったときは、録音が中止されます。　中止される直前までの演奏は録音されます。***

■ ***レコーダーに記憶した内容は、本体の電源を切っても消えませんが、一度電源を切ってから一週間ほど電源を入れないでおくとレコーダーの内容が消えてしまう可能性がありますので、ご注意ください。***

2）再生

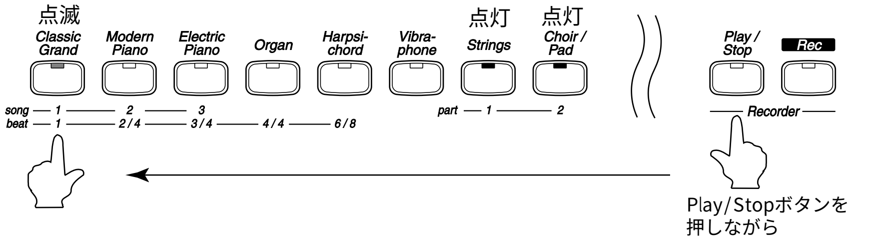
録音した曲を再生します。

□ 操作 1

Play/Stop ボタンを押しながら再生する song ボタンを押します。
選択した song ボタンは、点滅します。

■ Play/Stop ボタンを押した状態で点灯している song ボタンが録音されているソングです。

ソング 1 を再生する場合は、下図の様に Play/Stop ボタンを押しながら song 1 ボタンを押して離します。



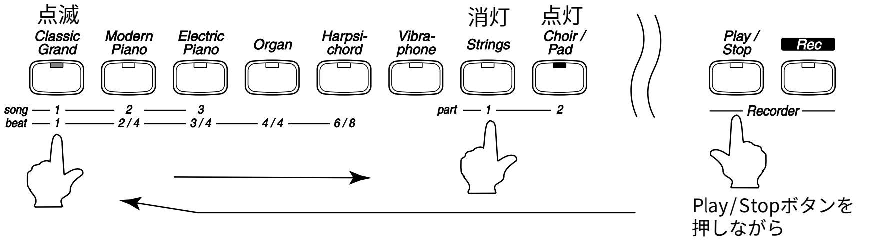
◇ パートのミュート

ミュート（音を消す）では、再生時にパート毎に音を出さないようにすることができます。

ソング 1 のパート 1,2 に録音された曲を再生するときに、パート 1 をミュートし、パート 2 のみ再生する場合は、下記のような操作になります。

□ 操作 1

Play/Stop ボタンを押しながら song 1 ボタンを押し（パート 1,2 が点灯）次に part 1 ボタンを押します（パート 1 は消灯し、パート 2 のみ点灯）。



□ 操作 2

Play/Stop ボタンを離します。

ソング 1 のパート 2 のみ再生されます。

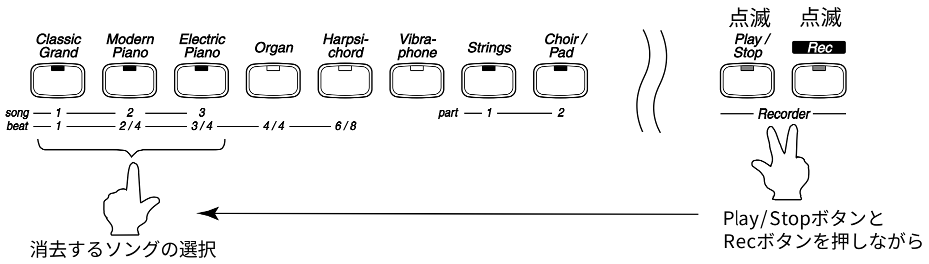
3）パートのデータの消去

録音に失敗したり、いらなくなった曲をパートごとに消去します。

☐ 操作1

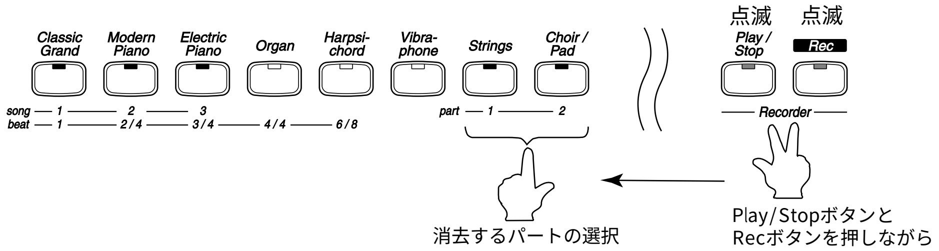
Play/Stop ボタンと Rec ボタンを同時に押しながら、消去する song ボタンを選択します。

Play/Stop ボタンと Rec ボタンを同時に押したとき、録音されている song ボタンのランプが点灯し、消去される song ボタンが点滅します。　ここで、新たに song ボタンを選択し、消去するソングを選べます。
また、録音されている part ボタンが点灯します。

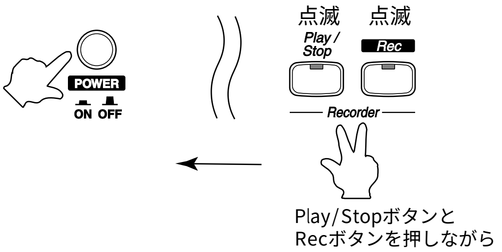


☐ 操作2

Play/Stop ボタンと Rec ボタンを同時に押したまま、消去する part ボタンを選択します。
選択した part ボタンのランプが消灯すると、そのパートのデータが消去されます。

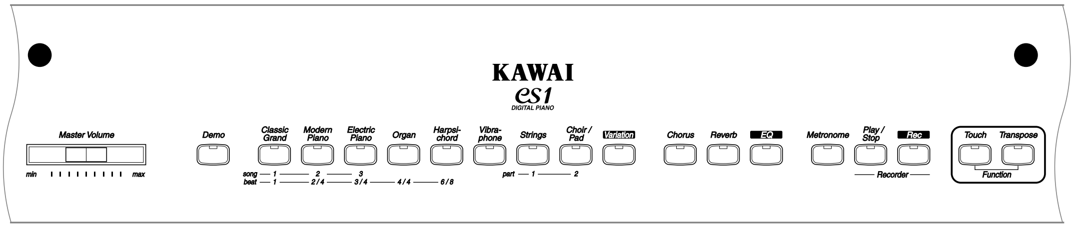


■ 録音されているすべてのソングを消去したい場合は、Play/Stop ボタンと Rec ボタンを押したまま、電源を入れてください。



4.設定モード（ファンクション）

本機には、ピアノの演奏を楽しむために、いろいろな状態を設定することができます。
これを " 設定モード " といいます。



設定メニューは、表の 6 項目です。

●設定項目	●初期値
①チューニング	A4=440.0Hz
② MIDI 送信・受信チャンネル	1ch
③ローカルコントロール オン/オフ	オン
④マルチ・ティンバー・モード オン/オフ	オフ
⑤（本体の音色スイッチによる）プログラム［音色］ナンバー送信 オン/オフ	オン
⑥（Function ボタンの 10 キーによる任意の）プログラム［音色］ナンバー送信	—

■電源を入れたときは、ここで設定した値は自動的に初期値に設定されます。

◇ 設定モードの基本的な使い方

□ 操作 1

Function ボタン（Touch ボタンと Transpose ボタン）を押して設定モードに入ります。

Touch ボタンと Transpose ボタンのランプが点滅します。

□ 操作 2

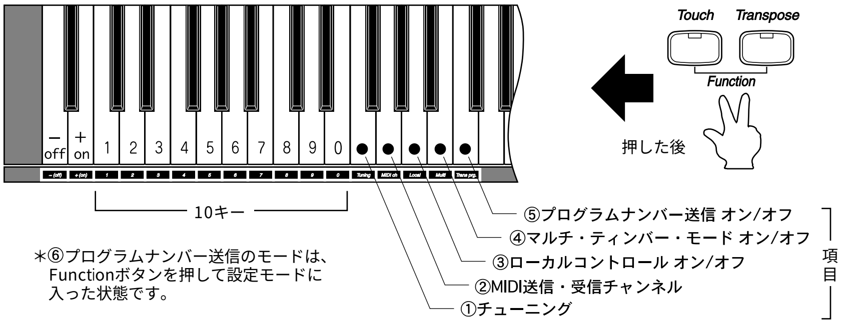
鍵盤に割り当てられている設定項目を選びます。

各項目の設定モードに入ります。

同梱のファンクションシールを使うと便利です。（Page...5参照）

□ 操作 3

次に鍵盤に割り当てられている 10 キー、もしくは－（off）/＋（on）キーで値を入力します。



＊⑥プログラムナンバー送信のモードは、
Functionボタンを押して設定モードに
入った状態です。

■ 操作 2 と操作 3 を繰り返すことで、続けて他の項目の設定ができます。

□ 操作 4

Touch ボタンか Transpose ボタンを押せば、設定モードから抜けます。

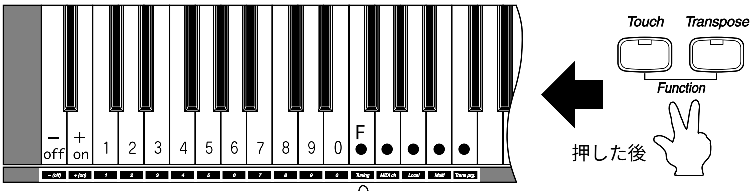
① チューニング

チューニング調整は、他の楽器とピッチ（音程）を合わせるときに行います。
電源を入れた時は、A4=440Hz に設定されます。

□ 操作 1

設定モードに入った後、鍵盤 F（ファ）［ファンクションシールの「Tuning」］を押します。

このとき、オルガンの音で
A4=440Hz の音が発音します。



□ 操作 2

鍵盤上の 10 キー、もしくは－（off）/＋（on）キーで値を設定します。

427 ～ 453Hz の範囲で設定できます。
－（off）/＋（on）キーでは、0.5Hz 刻みずつ値を変更します。

> 同梱のファンクションシールを使うと便利です。（Page...5参照）

□ 操作 3

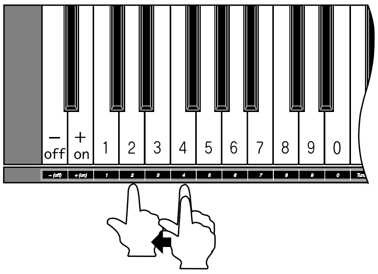
設定完了後、Touch ボタンか Transpose ボタンを押せば、設定モードから抜けます。

ここで設定モードから抜けずに、つづけて他の設定項目を選択し設定することもできます。

◆「A4=442Hz」に設定する場合

□ 操作 1

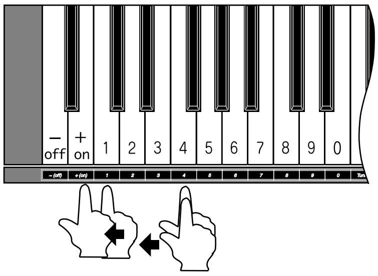
設定モードに入った後、鍵盤 F（ファ）を押し、
鍵盤「4」「4」「2」を押します。



◆「A4=441.5Hz」に設定する場合

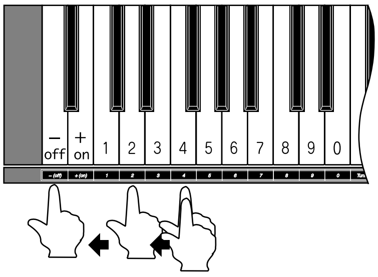
□ 操作 1

設定モードに入った後、鍵盤 F（ファ）を押し、
鍵盤「4」「4」「1」を押し、さらに「+」を押します。



もしくは、

設定モードに入った後、鍵盤 F（ファ）を押し、
鍵盤「4」「4」「2」を押し、さらに「−」を押します。



◇ MIDI 機能の使い方

■ MIDI について

MIDI について簡単に説明します。
MIDI（ミディ）とは、Musical Instrument Digital Interfaceの略称で、シンセサイザーや シーケンサー などの電子楽器間を接続し、お互いの情報をやりとりするための世界統一規格です。

本機のMIDI端子は、IN，OUT の2種類があります。いずれも MIDI専用ケーブルで接続します。

IN	：	鍵盤情報や音色情報を受信します。
OUT	：	鍵盤情報や音色情報を送信します。

MIDI には、チャンネルというものがあります。チャンネルには、受信チャンネルと送信チャンネルの
２種類があり、通常の場合、MIDI 機能をもった楽器はこの両者を備えています。
受信チャンネルとは、ある楽器が他の楽器から情報を受信する場合のチャンネルで、送信チャンネルとは、
ある楽器が他の楽器へ情報を送信する場合のチャンネルです。

■外部機器などを使っての録音 / 再生

図の様にカワイの音源内蔵レコーダー「DRP-10」に接続すれば、電子ピアノの演奏をDRP-10に録音し、それを再生することができ、電子ピアノの練習に役立てることができます。また、電子ピアノの設定をマルチティンバーオン（P.26 参照）にして録音/再生を行えば、ピアノ、ハープシコード、ビブラホンなど複数の音色によるアンサンブル演奏を楽しむことができます。
また、「DRP-10」の場合音源も内蔵してますので、その内蔵音色を使って演奏を楽しむこともできます。

その他、外部機器との接続は、P.28参照ください。

◇ 本機 MIDI 機能

本機の MIDI 機能は、以下の通りです。

◆ 鍵盤情報の送信・受信
電子ピアノを弾いてシンセサイザー等から音を出したり、その逆が可能です。

◆ 送信・受信チャンネルの設定
送信受信チャンネルを 1 ～ 16 の範囲で設定することができます。

◆ プログラム（音色）ナンバーの送信
電子ピアノと MIDI で接続したシンセサイザー等の音色（プログラムされた音色）を電子ピアノ側の操作で変えたり、その逆が可能です。

◆ ペダル情報の送信・受信
付属ペダル（F-1r）接続時、ダンパーペダルのオン / オフ情報の送信・受信ができます。
オプションのペダル（F-2r：2 本ペダル）を使用すれば、ソフトペダルのオン / オフ情報も送受信できます。

◆ ボリューム情報の受信
シンセサイザー等を弾いて、電子ピアノの音を出しているとき、シンセサイザーで電子ピアノの音量をコントロールすることができます。

◆ マルチティンバーの設定
電子ピアノが受信楽器になっているとき、複数の異なるチャンネルで鍵盤情報を受信して、各々別の音色を出すことが出来ます。

◆ エクスクルーシブデータの送信・受信
フロントパネルの操作や設定モードで変更した設定をエクスクルーシブデータとして送信受信ができます。

◆ es1 本体のレコーダーの再生情報の送信
レコーダーに録音した演奏を、MIDIで接続した電子楽器で鳴らしたり、外部シーケンサーに録音することができます。

② MIDI 送信・受信チャンネル

接続されたMIDI楽器といろいろな情報をやりとりするために楽器同士のチャンネルを合わせておくことが必要です。
チャンネルは、送信チャンネルと受信チャンネルの 2 種類があります。本機では 1 つのチャンネルを設定してそれが送信・受信両チャンネルを兼ねます。

□ ***操作 1***

設定モードに入った後、鍵盤 G（ソ）［ファンクションシールの「MIDI ch」］を押します。

同梱のファンクションシールを使うと便利です。（Page...5参照）

□ ***操作 2***

鍵盤上の 10 キーでチャンネル番号を設定します。

MIDI チャンネルは、1 ～ 16 の間で設定できます。
電源を入れたときは、1 チャンネルに設定されます。

入力は、必ず 2 桁で行います。
9 チャンネルに設定する場合は、「0」「9」と入力します。

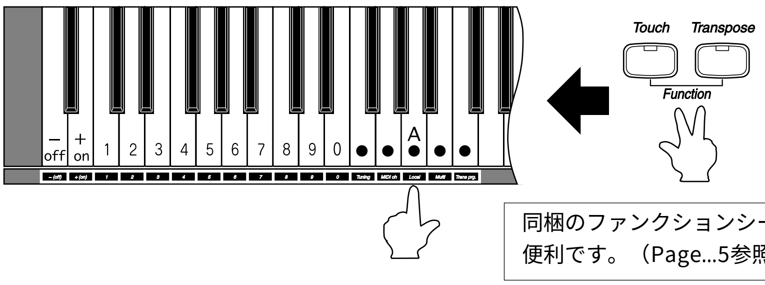
設定完了後、Touch ボタンか Transpose ボタンを押せば、設定モードから抜けます。
設定モードから抜けずに、つづけて他の設定項目を選択し設定することもできます。

③ ローカルコントロール オン / オフ

ここでは、本体の鍵盤を弾いて本体の音を出すか、出さないかの設定をします。
ローカルコントロールがオンのときは、通常通り鍵盤を弾けば本体の音が鳴ります。
一方、ローカルコントロールがオフの時は、鍵盤を弾いても本体の音は鳴らず MIDI 情報を MIDI OUT します。
このとき、本体の音は MIDI 情報を受信したときのみ鳴ります。

□ ***操作 1***

設定モードに入った後、鍵盤 A（ラ）［ファンクションシールの「Local」］を押します。



同梱のファンクションシールを使うと便利です。（Page...5参照）

□ ***操作 2***

鍵盤上の－（off）/ ＋（on）キーでオフ / オンを設定します。

電源を入れた時は、オンに設定されます。

設定完了後、Touch ボタンか Transpose ボタンを押せば、設定モードから抜けます。
設定モードから抜けずに、つづけて他の設定項目を選択し設定することもできます。

④ マルチティンバー・モード オン/オフ

通常は、設定されたMIDIチャンネル（1～16のどれか1つ）で情報を送受信しますが、マルチティンバー・モードをオンすることにより、複数のMIDIチャンネルを受信し、その受信したプログラムナンバーに対応した異なる音色を同時に出すことができます。（受信したプログラムナンバーに対応した音色は下表の通りです。）この機能により、外部のシーケンサーを使って、本機1台で複数の音色（マルチティンバー）によるアンサンブル演奏が可能です。

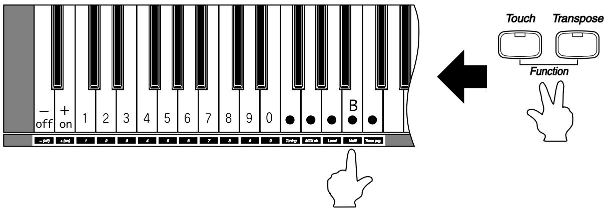
（マルチティンバーモードオンの時、10chで受信したデータは発音しません。）

◆音色に対応する送受信プログラムナンバー

音色ボタン	バリエーション	送受信プログラム・ナンバー マルチティンバーON時	送受信プログラム・ナンバー マルチティンバーOFF時
Classic Grand		1	1
	○	4	9
Modern Piano		2	2
	○	3	10
Electric Piano		5	3
	○	6	11
Organ		20	4
	○	18	12
Harpsichord		7	5
	○	8	13
Vibraphone		12	6
	○	13	14
Strings		49	7
	○	45	15
Choir/Pad		53	8
	○	89	16

□ 操作1

設定モードに入った後、鍵盤B（シ）［ファンクションシールの「Multi」］を押します。



同梱のファンクションシールを使うと便利です。（Page...5参照）

□ 操作2

鍵盤上の－（off）/＋（on）キーでオフ/オンを設定します。

電源を入れた時は、オフに設定されます。

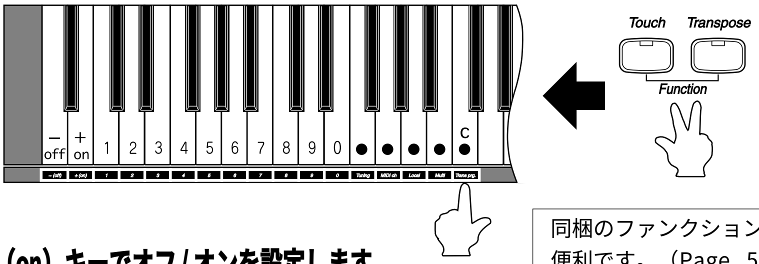
設定完了後、Touchボタンか Transposeボタンを押せば、設定モードから抜けます。
設定モードから抜けずに、つづけて他の設定項目を選択し設定することもできます。

⑤ プログラム（音色）ナンバー送信 オン/オフ

音色ボタンによるプログラムナンバーの送信をするかしないか（オン / オフ）を設定することができます。本機では、プログラムナンバー送信オンに設定すれば、演奏中に8個の音色ボタンとVariationボタンを切り替えることにより、上表に対応したプログラムナンバーを送信します。

□ 操作1

設定モードに入った後、鍵盤C（ド）［ファンクションシールの「Trans prg」］を押します。



同梱のファンクションシールを使うと便利です。（Page...5参照）

□ 操作2

鍵盤上の－（off）/＋（on）キーでオフ/オンを設定します。

電源を入れた時は、オンに設定されます。

設定完了後、Touchボタンか Transposeボタンを押せば、設定モードから抜けます。
設定モードから抜けずに、つづけて他の設定項目を選択し設定することもできます。

⑥ プログラム（音色）ナンバー送信

「5） プログラム（音色）ナンバー送信」で「オン」に設定しなくても、1～128の範囲でプログラムナンバーを送り、外部のMIDIで接続している音源の音色を変更することができます。

□ 操作1

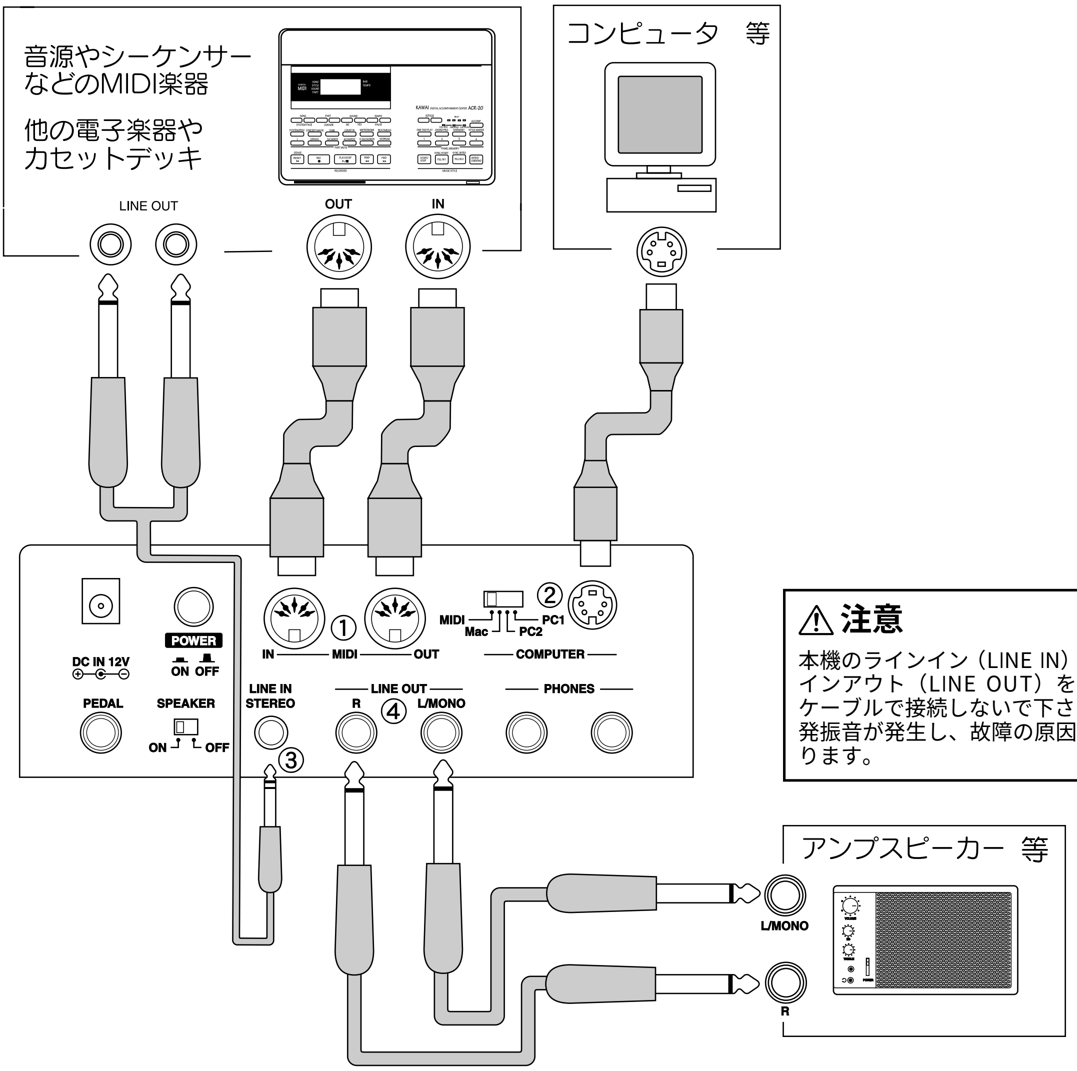
設定モードに入った後、鍵盤上の10キーでプログラムナンバーを送信します。

001～128までの範囲で送信可能です。
プログラムナンバーの入力は、3桁で行います。
例えば、プログラムナンバー1を入力する場合は、「0」「0」「1」と入力します。
3桁目が入力されると同時に、プログラムナンバーが送信されます。

設定完了後、Touchボタンか Transposeボタンを押せば、設定モードから抜けます。
設定モードから抜けずに、つづけて他の設定項目を選択し設定することもできます。

5.付 録

1）外部機器との接続



⚠注意

本機のラインイン（LINE IN）とラインアウト（LINE OUT）を直接ケーブルで接続しないで下さい。発振音が発生し、故障の原因になります。

① MIDI（ミディ）

MIDI規格に対応している楽器と接続する端子です。

② COMPUTER（コンピュータ）

・Mac・MIDI・PC1・PC2 切り替え

シリアルインターフェースを利用して、直接コンピュータと接続するとき、コンピュータの種類に応じて切り換え設定をします。

・Mac：マッキントッシュのコンピュータと接続の場合	・PC1：NEC（PC98シリーズ）のコンピュータと接続の場合（NXシリーズ除く）
・MIDI：MIDI端子を使用する場合	・PC2：DOS/Vの互換機（NEC NXシリーズ含む）と接続の場合

・SERIAL INTERFACE（シリアルインターフェース）端子

市販の専用ケーブルで接続することで、直接コンピュータとMIDIデータをやりとりすることができます。
接続ケーブルの仕様は、次ページを参照ください。

③ LINE IN STEREO（ライン入力ステレオ端子）＜ミニジャック＞

他の電子楽器やカセットデッキなどの出力端子とこの端子を接続すると、本機の内蔵スピーカーから接続した機器の音を出力できます。この場合、本体のボリュームでは音量を調節できませんのでそれぞれの機器側で調節してください。

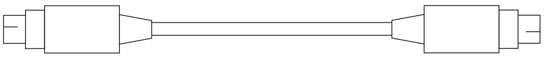
④ LINE OUT（ライン出力端子）＜標準ジャック＞

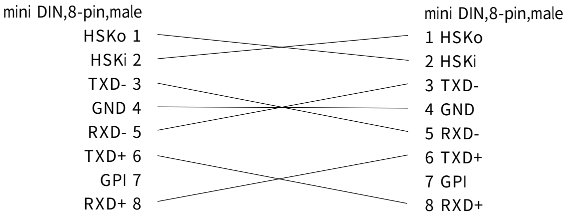
本機の音を他の外部機器（アンプ、ステレオ）などで聴いたり、テープデッキに録音する場合に使用する出力端子です。出力レベルは、本体のボリュームで調節できます。R（アール）は右側、L / MONO（エル/モノ）は左側の出力を示しています。なお、モノラル信号は、L/MONOにのみプラグを接続したときに出力されます。

◇ 接続ケーブルの仕様

Apple Macintosh シリーズ接続用ケーブル

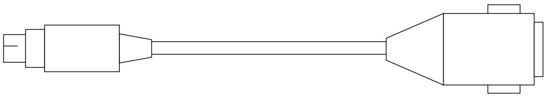
■ mini DIN, 8-pin, male　　■ mini DIN, 8-pin, male





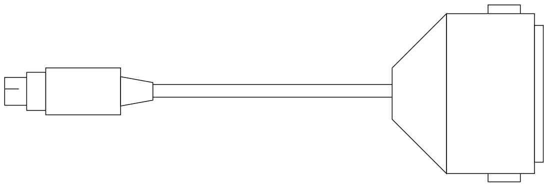
IBM PC/AT シリーズ接続用ケーブル

■ mini DIN, 8-pin, male　　■ D-sub, 9-pin, male

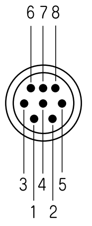


NEC PC9800 シリーズ接続用ケーブル

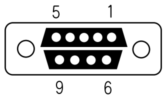
■ mini DIN, 8-pin, male　　■ D-sub, 25-pin, male



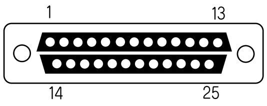
■ mini DIN, 8-pin, male



■D-sub, 9-pin, male



■ D-sub, 25-pin, male



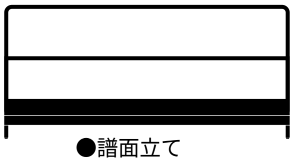
2）主な仕様

■ 鍵　盤	88鍵/アドバンスト・ハンマー・アクションⅡ
■ 同時発音数	最大32音
■ 音色（16 音色）	クラシックグランド(2)、モダンピアノ(2) 、エレクトリックピアノ(2)、オルガン(2)、ハープシコード(2)、ビブラホン(2)、ストリングス(2)、クワイヤー/パッド(2)
■ その他の機能	ボリューム、トランスポーズ、チューニング、デュアル、デモ（15曲）、タッチカーブセレクト（4種類）、コーラス、リバーブ（3種類）、EQ（6種類）、コンサートマジック（40曲）、スピーカーON/OFFスイッチ
■ レコーダー	3ソング×2トラック、総記録容量　約1,800音
■ メトロノーム	1、2/4、3/4、4/4、6/8拍子
■ ペダル	ダンパー, ソフト（オプションの2本ペダル接続時）
■ 外部端子	ヘッドホン（2）、ペダル、MIDI（IN、OUT）、COMPUTER I/F LINE OUT(L/MONO,R)、LINE IN（STEREO Mini）
■ 出　力	7W×2
■ スピーカー	（12cm×8cm）×2
■ 定格電圧	AC100V、50/60Hz
■ 消費電力	30W
■ 寸　法	（W×D×H）135.4×31.9×12.7（cm）
■ 重　量	18.3Kg
■ 同梱品	本体/ACアダプター（ＰＳ-125Ｄ）/フットペダル（F-1r）/譜面立て/ファンクションシール/取扱説明書（本書）/保証書/ご愛用者カード/アフターサービスと音楽教室のご案内/「コンサートマジック曲集」のご案内/「コンサートマジック曲集」払込通知票（全て各1部）
■ オプション	スタンド（QL/646）/ヘッドホン（SH-2,SH-5）/2本ペダル（F-2r：ダンパー,ソフト対応）/収納袋 兼 ダストカバー

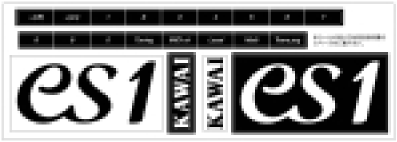
◇ 付属品一覧

● AC アダプター

●フットペダル

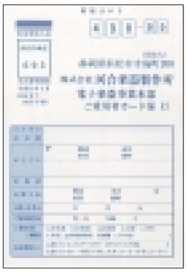


●譜面立て



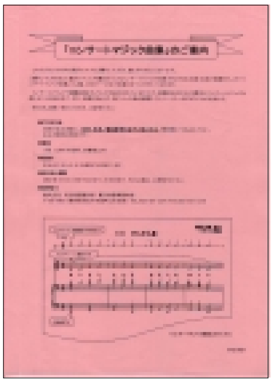
●ファンクションシール

●取扱説明書（本書）

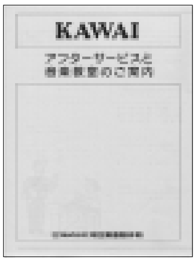


●ご愛用者カード

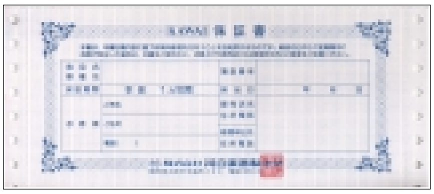
●「コンサートマジック曲集」払込通知票



●「コンサートマジック曲集」のご案内



●アフターサービスと音楽教室のご案内



●保証書

付録 ⑤

◇ KAWAI［Model es1］MIDI IMPLEMENTATION CHART

Date : JUN, 2000
Version : 1. 0

ファンクション		送 信	受 信	備 考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 1 ～ 16	1 1 ～ 16	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × ＊＊＊＊＊＊＊＊＊	モード1 ＊ モード1,3 ×	* 電源 ON 時オムニ・オン。MIDI チャンネル設定操作によりオムニ・オフ。
ノート ナンバー	音域	15 - 113 ** ＊＊＊＊＊＊＊＊＊	0 - 127 15 - 113	**15-113 トランスポーズを含む
ベロシティ	ノート．オン ノート．オフ	○ 9nH v=1-127 × 8nH v=0	○ ×	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ．ベンド		×	×	
コントロール チェンジ	7 64 67	× ○（右ペダル） ○ *1	○ ○ ○	ﾎﾞﾘｭｰﾑ ﾀﾞﾝﾊﾟｰﾍﾟﾀﾞﾙ ｿﾌﾄ ﾍﾟﾀﾞﾙ
プログラムチェンジ 設定可能範囲		○	○	（プログラムチェンジ対応表参照）
エクスクルーシブ		○	○	
コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム	クロック コマンド	× ×	× ×	
その他	ローカルON／OFF オールノートオフ アクティブセンシング リセット	× × ○ ×	○ ○ *** ○ *** ×	*** マルチティンバーモード ON の時
備 考		*1 F-2r（オプションの2本ペダル）接続時		

モード１：オムニオン、ポリ　モード２：オムニオン、モノ
モード３：オムニオフ、ポリ　モード４：オムニオフ、モノ

○: 有り
×: 無し

付録⑤

KAWAI

株式会社河合楽器製作所

電　子　楽　器　事　業　本　部

〒430-8665　　浜松市寺島町200番地

TEL.<053>457-1277 / FAX.<053>457-1279

http://www.kawai.co.jp

KPSZ-0009

0006S - Printed in Japan